

「建築鉄骨超音波検査技術者」実技試験における 超音波探傷器の持込みについて

2019 年度「建築鉄骨超音波検査技術者 実技試験・更新試験」において、受験者が自ら持参する超音波探傷器等に関する諸条件は、次のとおりです。

1. 持込みを認める超音波探傷器

- ・アナログ探傷器は全ての機種
- ・デジタル探傷器は下表に掲載した機種のみ（これ以外の機種では受験できません）

メーカー等	機 種
カールト・イチェ（日本マテック）	ECHOGRAPH 1085, ECHOGRAPH 1086, ECHOGRAPH 1090 DAC ECHOGRAPH 1090 DAC/AVG, ECHOGRAPH 1095
GE センシング & インスペクション・テクノロジーズ （クラウトクレマー）	USM25J, USM25S, USM35S (USM35), USM35X DAC (USM35X), USN52RJ, USN52LJ, USK7D, USM35X RB, USM35X JE, USMGo, USM36, USMGo+
菱電湘南エレクトロニクス	UI-23, UI-25, UI-25S, UI-S7, UI-S7 α , UI-27
トキメック（菱電湘南エレクトロニクス）	SM-300
ストレステル（信明セネラル/アイ・エス・エル）	Flaw MIKE DAC
オリンパス	EPOCH 4, EPOCH 4B, EPOCH 4PLUS, EPOCH III, EPOCH IIIB, EPOCH LT, EPOCH LTC, EPOCH XT, EPOCH 1000, EPOCH 1000i, EPOCH 600, EPOCH 650, EPOCH 6LT
K&M (NDT マート&レンタル)	KFD50
SIUI (NDT マート&レンタル)	CTS-2020E

※ 探触子（斜角・垂直）、探傷ケーブル、標準試験片（STB-A21・A3、Z-RB）、接触媒質（ソニコート）及び電源（AC 100V）は、会場に準備してあります。

※ アナログ探傷器の場合は、補助目盛板を持参して下さい。

（注意）上記の持込が認められている機種（認定機種）について、探傷器自体の性能を認定しているわけではありません。したがって、試験当日に機器の性能上の不備・不具合などで困らないよう、性能等を確認の上、持参してください。

2. 注意事項

- ・持込んだ探傷器の性能、取扱い、不具合及び事故等の処理は、一切、自己責任とします。探傷器は、必ず保守点検をし、取扱い方法を習得しておいて下さい。
なお、試験では、試験中に探傷器の不具合が発生した場合でも再受験を認めません。
- ・デジタル探傷器の場合、試験開始前及び終了後にイニシャライズ処理（全てのメモリーを消去）をします。重要なデータは、バックアップを取っておいて下さい。
- ・アナログ探傷器の場合、試験開始前に補助目盛板のエコー高さ区分線を消します。
- ・試験では、主催者が用意した探触子及び探傷ケーブルを使用します。この際、持参する探傷器の接栓が探傷ケーブルの接栓（探傷器側；レモ（大））と異なる場合は、主催者が接続用変換アダプターを用意しますので、必ず、申請書に探傷器の接栓（型式）を記入して下さい。（接栓が不適合の場合、受験できません。）
- ・電源は、原則として AC 100V を使用して下さい。バッテリーを使用する場合は、試験時間（新規；約 4 時間、更新；約 2 時間）を充分満たしておく必要があります。（充電切れの場合でも再受験できません。なお、試験会場では充電不可。）
- ・探傷器は当日会場に持参して下さい。（宅配便等での会場への直送はお断りします。）

以上